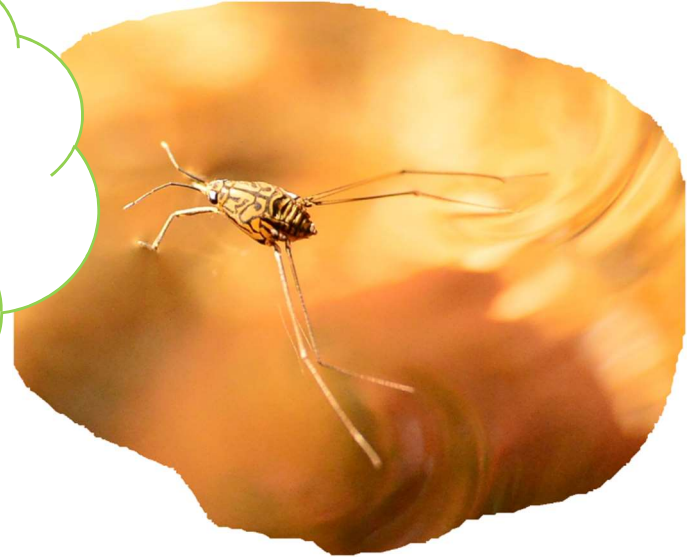




ムーアカデミー通信

Aichi Kaisho Forest Center News Letter vol.47 Spring 2021

これはシマアメンボっていうんだよ。
漢字で書くと 縞水黽 だけど読めないね。
きれいな水が流れる小さな沢にたくさんいるよ。
でも、動きがとっても素早いから背中に模様があるなんて気が付かないんだ。
大きさは7mmくらいで足がとっても長いんだ。
君も撮影にチャレンジしてみよう。
上手に模様が撮れるかなー。



今号のトピックス

- ・繭玉広場の飛び石を延べ段にしました.....(2P)
- ・この人 里山サテライトと海上の森の会の誕生 伊藤 良吉さん.....(2P)
- ・海上の森の哺乳類写真展案内.....(3P)
- ・海上の森調査報告第10号を発刊しました 他.....(4P)

センター来館者30万人達成！！



令和3年4月25日(日曜日)、あいち海上の森センターは、30万人目の来館者をお迎えしました！

30万人目の来館者は、イベントに参加するために来館された長久手市在住の荒木果苗様で、ご家族の真人様、風禾(ふうか)ちゃんとお越しいただきました。荒木様ご一家には、海上の森で見られる花や鳥、虫などをあしらった特製缶バッジ6個セットの記念品を贈呈しました。

むささびっ子の森探検隊が繭玉広場の飛び石を延べ段にしました

海上の森で環境保全活動を行っている、むささびっ子の森開拓団の親子が、3月に繭玉広場前に延べ段を作りました。もとも飛び石だったこの場所は、石の隙間から草が生えなくなり、歩きやすくなりました。サテライトで三和土(たたき)を補修した技術を子供たちが引き継いで、ブロック状の人工石(※)を作り、延べ段にしました。人工石には、趣向を凝らした模様があしらわれています。あいち海上の森センターへお越しの際は、是非、遊歩施設の繭玉広場まで足を運んでください。

※粘土と石灰とにがりを一定の割合で混ぜ、コンクリートのように固めたもの。



レイアウト決め



石灰投入！



同じ高さに



仕上げ！

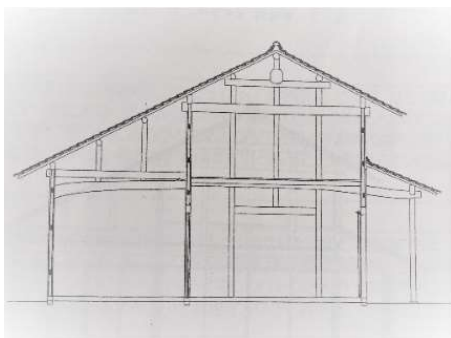
この人「里山サテライトと海上の森の会の誕生」伊藤良吉さん

海上では昭和30年代以降、挙家離村(きよかりそん※)が続き、このままでは先祖から受け継いできたムラの歴史が消えるのではないかと住民のなかから危惧する声が上がってきました。その意を受けた県の要請で、平成11年(1999)にはメンバー5名で海上町の生活誌編纂プロジェクトチームを立ち上げました。私は民俗学の立場からこのチームに加わりました。調査終盤の平成15年2月、メンバーのひとり柴田鐘三先生から海上の「向(むかえ)」にあった鈴木俊憲さん旧宅の老朽化が進み解体・撤去することになったという情報がもたらされました。ただちにメンバーが海上に集まり、すでに業者とは契約済みでしたが、そこを何とか思い止まっていたさき、あわやというところで旧宅が残ることになりました。それを県がもらい受け現所在地に移築したのが、今の「里山サテライト」です。

解体、移築作業を進めるうちに、この民家には幾つかの特色のあることが分かってきました。この民家は大正7年(1918)に赤津から海上に移築されたものでした。尾張地方の山地・丘陵地は山が浅いため建築材を求めることが難しく、古家の売買移築はよくあることでした。今でいうリサイクルです。この民家の特色は1階部分の軒先が高く母屋前面に採光を取り、室内作業がしやすくなっていることと、棟木を支える中心部分(軸組)の母屋後面に下屋柱を出して裏の部屋を広く取っていることです。旧宅の解体工事は新たに応募した海上古民家再生プロジェクトチームによって平成15年に行なわれました。母屋裏の下屋部分の解体の時、下屋梁に乗った途端、梁が折れてあわや転落というできごとがありました。裏側の部屋を下屋にするのは、母屋の前庭を作業場として広く取るため母屋を湿気の多い山際ぎりぎりまでさげ、下屋部分は老朽化が早く進んでも風通しがよく老朽化の遅い母屋の中心部分をかまうことなく修復することができたからです。これもくらしの知恵といえます。今度サテライトにお寄りの節は後ろの部屋の梁が新しい部材で修復され、母屋の中心部が元の古い部材をそのまま使っている所を是非見て下さい。

海上の森の会は、熱気のまださめやらない古民家再生プロジェクトチームが中心となって平成16年12月に誕生しました。

※一家総出で都市部に引っ越すこと。



←サテライト断面図(棟木を支える中心部分と左側の下屋部分)
『海上古民家再生プロジェクトの【記録】』より

「プロフィール」

1941年6月25日生まれ
愛知県瀬戸市在住
日本民俗学会・日本洞窟学会 会員
会報「海上の森だより」編集者
情報募集中です



海上の森で見られる哺乳類たちの写真を展示しています



当センターでは海上の森や遊歩施設に設置した自動撮影カメラにより哺乳類の撮影を行っています。今回、そこで撮影された哺乳類を5月30日まで展示しています。

なお、撮影頻度はニホンイノシシが最も高く、次にニホンジカやニホンカモシカが撮影されています。場所によっては、ホンドタヌキが多く記録されているエリアもあります。

哺乳類は夜間に活動するものが多く、昼間に会うことはなかなか困難ですが、今回の写真展示で海上の森の哺乳類たちを知るきっかけにして、関心を持っていただければ幸いです。



ニホンカモシカ



ニホンイノシシ



ニホンジカ



ニホンノウサギ



ホントキツネ

新・所長あいさつ

4月に当センターにまいりました日比野です。

この季節、海上の森は目映いばかりの新緑で被われ、多くの方にご来館いただくとともに海上の森を満喫いただいています。

この4月25日には、開所してから来館者30万人を数えました。

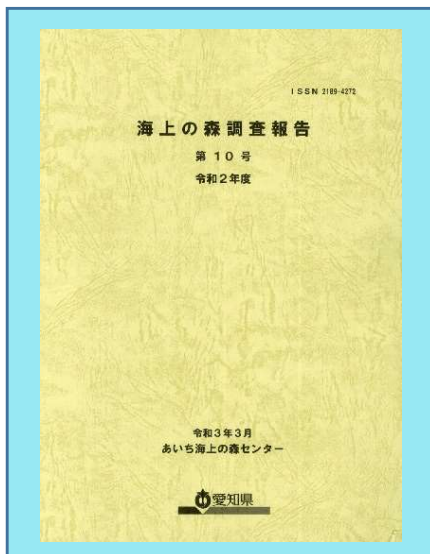
さて、当センターは開所以来15年という節目を迎えました。多くの皆様とともに、引き続き海上の森の特徴である多様な自然環境の保全、自然の恵みである資源の有効活用の促進、次世代に向けた森林や里山で活躍できる人材の育成、多様な主体との協働の取組を着実に進めてまいりたいと考えています。

このために、県民の皆様方と協働・連携し、海上の森での保全活用の取組を進めてまいりますので、皆様方のご参加とご支援をよろしくお願いいたします。

また、以下の職員が4月に着任していますのでご紹介します。どうぞよろしくお願いいたします。

所長代理 中野恒彦、主任 池田浩人、技師 野口博史、非常勤職員 浅見逸夫

海上の森調査報告第10号を発刊しました



経緯

海上の森調査報告は、平成23年に第1号を発刊して以来、今年3月には第10号（全182ページ）の発刊に至りました。

第10号の記事トピックス

今号では、ホトケドジョウの調査結果、自主調査として哺乳類・ムササビ・猛禽類・鳥類の調査結果、観察紹介として海上の森生物季節調査、再生した水田での植物調査、海上の森のツツスワリホコリ、海上の森の地下生菌、ごもり穴前での野生哺乳類の種類と様子、を掲載しています。

部数に限りがありますが、あいち海上の森センター本館にて無償配布していますので御来所の際にはぜひご覧ください。

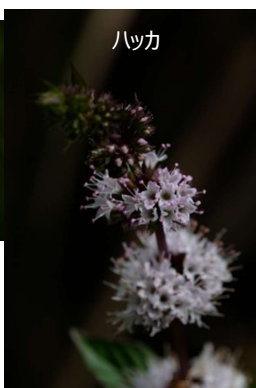
5月から8月に海上の森で見られる虫や花

初夏から夏にかけては、1年で最も多くの生きものが躍動する季節です。このコーナーでは、海上の森で5月から8月にかけて見られる代表的な虫や花を紹介します。

虫



花



編集後記

新緑が目眩しい季節がやってきました。この時期、日増しに木は葉を茂らせ、鳥のさえずりは賑やかに、虫の姿もあちこちで見られるようになります。海上の森は生命の息吹に満ちあふれています。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 2021年5月21日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kaisho/>

< QRコード >



ホームページ